

【近畿農政局長賞：単位収量の部】

やまだ なな
山田 奈々(滋賀県東近江市)

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
北陸193号	約1.6ha	784kg/10a	262kg/10a(537kg/10a)※ ※作況補正後の地域の平均単収

【経営概況】

- 家族4人(本人、夫、両親)で経営する兼業農家。
- 水稻専作で、経営面積約4.3ha

【作付品目】

- ・主食用米:夢ごこち、きぬむすめ、
しがはぶたえもち 滋賀羽二重糯 約2.5ha
- ・飼料用米:北陸193号 約1.6ha

【取組のきっかけ】

- 小規模集落で離農者が増える中、不作付地の解消と収益増加のため、借地を含む農地において、平成26年産から主食用品種「日本晴」で飼料用米生産に取り組む。
- 平成27年産から、出荷先の商系事業者(米・資材卸)の薦めもあり、倒伏に強く、多収である「北陸193号」の生産に取り組んでいる。

【取組概要】

- 「北陸193号」は主食用より早く定植し、主食用より遅く収穫することで、品種特性を踏まえた十分な生育期間を確保し未熟粒を減らして単収を増加させている。
- 良質な土づくりのため、水稻収穫後1週間以内にもみがらを散布し、わらと併せてすき込むとともに、12月末までに再度のすき込みを行っている。
- 施肥は、元肥として窒素分30%の緩効性肥料を田植と同時(5月3～5日)に施用(30kg/10a)し、幼穂形成期の少し前(7月13～16日)に追肥することで株の根張りを向上させている。追肥は、過去の施肥量と収穫量を分析するなどし、ほ場に応じて安価な単肥(尿素)を施用するなど、コスト低減に取り組んでいる。
- このほか省力化の取組として、簡易水槽でプールによる育苗や苗数を減らすため疎植にするとともに、防除は育苗箱施用と除草剤の田植7日後散布の2回に削減している。
- 6月中旬に確実に水切り作業を行い、最高分げつ期の直前に十分な落水を行うことにより、倒伏防止と根の活性化を促進している。
- 地域の気象・土壌条件に即した生産技術の確立により、毎年高い単位収量を確保している。

